

合格体験記

「当たり前のこととする」

高知県立大学 健康栄養学部 健康栄養学科

私が大学進学をするために頑張ったことは、当たり前のこととするということです。例えば、遅刻や欠席をしない・提出物は必ず期限内に出すなどです。遅刻や欠席をすれば、内申点に響くだけではなく、授業についていけなくなってしまうからです。また、提出物を出さなかったり遅れたりすると、テストの点数や授業態度が良くても評価が下がってしまいます。

定期テストでは、ノートやプリントに書いたことを穴埋め問題にして理解を深め復習しました。授業でただ板書するのではなく、先生が話していたことをメモして授業内容を思い出せるように工夫していました。2年生の数学のテスト勉強は、問題集を2～3回繰り返すことで良い点数を取ることができました。1回目分からない問題は、教科書やノート、答えを見て解き、2回目は間違ったところや分からなかった問題を解いて、時間に余裕のあるときには3回目テスト範囲の問題を初めから解き、全て何も見ずに解けるよう頑張りました。

受験勉強については、1・2年の頃はまだ行きたい大学やどの学部が良いのかははっきりとは決まっていなかったため、とにかく評定平均は4.0以上とすることを目標に頑張りました。理由は、進学ができる大学の幅を増やし推薦で受験したいと思ったからです。推薦で合格することができれば、早く進路に対する不安を解消できると思ったからです。苦手な教科やテストの点数が低かった教科で自主勉強を評価してもらえらる教科ではテスト勉強でしたことを提出し、それ以外の教科ではノート・プリントなどの提出物にメモをして提出点を上げられるようにしていました。受験する大学を決めたのは高校3年生の夏休みで、志望校を決定するときには親に相談したり、担任の先生が私の条件に合う大学を探してくださったりして決めることが出来ました。本格的に受験勉強を始めたのは夏休み後で、試験内容はプレゼンテーションと小論文だったので、志望学部の栄養や食の知識を増やすことを目的に週に1冊は食・栄養の本を読み、原稿用紙にまとめや感想を書くことを担任の先生が提案してくださり、それをやっていました。小論文は、国語表現で何回も書いていたので、それまで文章をたくさん書くことは苦手でしたが、練習していくうちにコツや書き方が分かり、受験のときにはあまり苦戦せずに済みました。

以上より、進学するために大切なことは、今自分が出来ることはさぼらずに行い、進路を決めるときには親や先生に相談することだと思います。

「大切にした4つのこと」

佛教大学 歴史学部 歴史学科

この度、私は幸いにも第一志望の佛教大学に合格することができました。これから、私の体験、大切にしたことを4つ書いてみます。

1つ目は、高校生活で大切にしていたことです。私は特に成績を大切にしていました。指定校推薦や総合型選抜を視野に入れたとき、「評定平均は4.0以上あった方がよい」と学校や塾の先生にアドバイスをいただきました。実際に、私は総合型選抜を利用したのですが、受験資格に評定平均3.8以上という条件があり、成績を大切にしていた良かったと思います。成績を上げるにはテストの点も重要ですが、提出物をしっかり提出することが1番です。

2つ目は、進路希望を決める上で大切にしたことです。まず、自分は何が好きなのか、何を学びたいのかを考えました。考えた末、授業で面白いと感じ、もっと学びたいと思った歴史を勉強するため、大学進学を決めました。

3つ目は、面接練習の大切さについてです。面接練習は絶対にしておいた方がいいです。本番の方が何倍も緊張しますが、一度しているのとしていないのとでは、大きく変わると思います。私の受けた大学の面接内容は他の大学とは異なる質問内容でしたが、それを先生に事前に伝えておくことで大学の出題傾向に沿った質問をしてくださいました。自分の直した方が良い点などアドバイスしてくださるので、必ず役に立ちます。

4つ目は、自分の経験からのアドバイスです。ありきたりですが、勉強は本当に大切です。私も勉強、特に英語が苦手です。苦手な教科を利用せずに受験できたことは運があったとしか言えませんが、英語は大学でも必要な教科なので、しっかり勉強してこなかったことをとても後悔しています。「2年生から…」「3年生から…」ではなく、日々の授業を皆さんには大切にしたいです。

総合型選抜での大学受験を考えている方は、自分の受ける分野を深く理解しておくことが大切です。その分野について学んできたことの復習や、いろんな視点から見てみることも大切です。小論文も同じです。どれだけ理解しているのかを見られるテストなので、復習と大学の過去問を解き直すことが大切です。先生にお願いすると添削もしていただけると思います。

以上、私のつたない体験と大切なことを書き連ねました。少しでも参考になればうれしいです。皆さんも、頑張ってください。

「夢を叶えるために」

京都中央看護保健大学校 看護保健学科

まず初めに私は勉強が苦手です。中学ではテスト勉強の仕方がわからず、全教科の補習に呼ばれるくらいでした。だから高校入学直後は、「留年したらどうしよう」という不安の中スタートしました。そんな私がどのようなことを意識して評定を保ち、指定校推薦で合格したのか紹介します。

1年生の時は評定を意識するというよりも赤点をとらないように勉強しました。色々模索し、自分に合った勉強法を見つけるためにしたことは、自分より成績の良い人の勉強法をまねしてみることです。そうすると前より効率よく勉強できるようになりました。この時点では志望校は決まっておらず、幼い頃からの夢だった看護師の資格が取得できる学校に進学しようと考えていました。

2年生になると、夏休みの三者面談で指定校推薦という制度があることを知りました。指定校推薦で行くには評定が必要だったため、ここから評定を意識しはじめました。とにかく評定を上げたかった私は、頭に残る勉強というよりも、とにかく暗記しまくり、テストでいかに高得点をとれるかという勉強法にチェンジしました。その勉強法が私に合っていたのか、評定は最終的に1年のときよりも0.5上がりました。志望校選びも、とりあえず気になる学校のパンフレットを取り寄せて選ぼうとしましたが、看護師の資格が取得できる学校といっても色々あるので、何回も第一志望が変わりました。色々悩みましたが、私が志望校選びをする上で大切にしていたことは、資格が取得できること+αその学校の魅力は何かを見つけることです。この+αが志望理由に直接かかわってきます。というのも、面接の時に必ず志望理由は聞かれるため、この時に資格が取得できるからだけでは不十分です。私の場合、看護師の資格に加えて保健師の資格も取得でき将来の選択の幅が広がると考えたのと、患者さんと接する時により広い視野が持てると思ったのがその理由です。このように看護師の資格+αその学校で得られるものや、魅力に感じるものが志望理由になります。今、気になっている学校があれば、ぜひオープンキャンパスに参加してみてください。その学校の特色を細かく教えてくれるので、この+αが見つかりやすいです。また、学校の全体的な雰囲気や通学しやすいかなど、実際に行かないとわからないことも多いので、できればリモートではなく直接行くことをおすすめします。

3年生では志望校から指定校推薦がくるか夏休み終盤までわからないので、過去問を解いたり、苦手な部分を復習したりするようにしました。指定校推薦で受験することが決まった後は、面接で聞かれそうなことをノートにまとめて予想外の質問をされても答えられるように練習しました。色々な質問に対しての返答を考えておくと、本番も緊張せずに自分の伝えたいことが言えるようになります。

高校受験とは違い、全員受験する日程も入試方法も異なるので、周りの友達の進路が決まっていく中で自分も合格できるだろうかという不安を抱えながら勉強していかなければなりません。また、高校で決定する進路は自分の人生に大きく関わってくるため、プレッシャーを感じると思います。私自身も夢を叶える第一歩を踏み出ただけなので不安を感じることがありますが、高校で培った経験を糧に、これからも努力し続けたいと思います。

「できる限り早いうちから勉強を進める」

京都産業大学 外国語学部 英語学科

私は無事志望校に合格することができました。そんな私が受験勉強に取り組む際に気をつけたことを3つ紹介したいと思います。

まず一つ目は、決まった時間に勉強机に座ることです。勉強の習慣がなかった私は、勉強をはじめるのがとてもおそかったのですが、これを始めることによって「勉強しない」という気持ちになり、勉強を習慣化することができました。

二つ目は、復習をすることです。受験勉強でまず始めにすることが、今までの範囲の復習だと思っています。実践問題を解かないと大学受験のレベルに追いつけないのではないかと焦る気持ちも出てくるとはありますが、受験は長期戦になるので、早いうちに基礎を固めることが大切です。実際、私も受験勉強を終えた今、早めから復習をされていてよかったと感じています。

最後に、適度に休みをとることです。3年生になり、特に夏休みなどを迎えると、一日十時間とか、毎日勉強しないと行けないのでは、とかいうイメージが強いと思います。けれども私自身受験を体験してみて、そんなに毎日長時間頑張れる人はごく少数なのかなと感じました。勉強から離れる日や時間を決めておいて、きちんと切り替えをすることで、ゴールが遠くて見えにくい受験でも、長い期間、メリハリをつけて頑張れるのではないのかな、と感じました。

大学受験はみんな初めてで、どのように進めたらいいのか分からず、ただがむしゃらに勉強することもあると思います。実際わたしも、塾などに通っていなかったこともあり、勉強方法等を聞きたい時に聞ける人がいませんでした。私は自分なりに方法を見つけて勉強を進めていきましたが、先生や受験を経験した人や友達などから勉強方法をきいて、良い方法は取り入れて自分のものにしていくことが一番効率がよいのではないかと感じました。

受験は実感が持てず、危機感を持って勉強することが難しいのではないかと思います。すでに行きたい大学や夢がある人はそれに向かって進めばいいと思います。そうでない人も、できる限り早いうちから計画を立てて勉強を進めることで、自分が後悔しないような選択ができると思います。勉強だけに集中できるのは、高校生の今しかありません。自分が選んで良かったと思えるような選択ができるように、今からがんばってください。

「自分を信じて頑張ってください！きっと大丈夫！」

京都女子大学 発達教育学部 児童学科

私が受験生活で大切にしていたことを3つ記していこうと思います。少しでも参考になると嬉しいです。

1つめは、自分にごほうびをあげることです。私は勉強が嫌いだったので、毎日勉強することはとても大変でした。そのため、一日の最後に押しの動画を見たり、模試を受けた帰りにお菓子を買ったりして、自分に御褒美を用意していました。小さなことでも自分を褒め、ごほうびをあげてください。

2つめは、時間を決めて勉強することです。この時間は、必ず自分が集中できる時間にすることが大切です。私は長時間ずっと勉強し続けることが苦手だったので、20分1コマで、1日10コマ（平日）していました。適度に休憩が取れて、また勉強しているときに集中が切れてしまうこともないので、私にはとても合う勉強法でした。

3つめは、自分を信じることです。私はこれが一番大事なことだと思います。受験生活の中では比べられる情報がたくさんあります。周りとの学力や勉強時間の差だけではなく、インターネットの中にもたくさんあります。例えば、インスタグラムの中には「〇〇時間勉強したのに全落ち」「合格する人と落ちる人の違い」「〇〇をしていない受験生はやばい」といった内容の投稿がたくさんあります。私はこういった情報を安易に信じないことが大事だと思います。受験が近づいてくると、今信じていなくても、そういう情報で不安になってしまう可能性があります。ですから、極力インターネットの情報は見ない方がよいと思います。私は高校2年生の冬に、インスタグラムやツイッターは消しました。そして、志望校を決めるときも、模試の結果を見た時も、受験当日も、自分を信じてください。自分の力を信じて勉強に取り組めば、きっと合格できると思います。

以上が、私が受験生活で大切にしていたことです。これから始まる受験生活、自分らしくめいっぱい頑張ってください。また、残りの高校生活も全力でたのしんでください。そして、勉強してください。勉強だけに集中できる今の時間は貴重です。友達に愚痴りなが

らでも、休みながらでもいいので、自分の行きたい進路に進めるよう、自分を信じて頑張ってください！きっと大丈夫！

進路を考える上で「好き」を大切に

京都芸術大学 舞台芸術学科 演技演出コース

私は進路を考える上で「好き」というのは大切だと思う。私がそう思うのには理由がある。高校を出ると高校時代よりももっと自立していかなければならない。それに反して高校を出ると、壁にぶつかったり、挫折したりすることが多くなる。挫折した時に立ち直りやすいかどうかは、そのことが好きかどうかが大きく関わってくると思う。また、挫折しないとしても、専門学校なら2年間、大学なら4年間、何かを続けるモチベーションの維持には、好きだということが大切だし、有意義な学生生活に繋がると思う。

私は高校3年間演劇部に所属した。最初は高校で新しいことに挑戦したいという気持ちで始めた演劇だが、その魅力に魅せられて好きになり、3年の卒業ギリギリまで参加していた。私の青春のほとんどは部活だと言えるくらい部活動と演劇が好きである。そんな自分でも嫌になったことや軽く挫折したことはある。でも演劇そのものが好きだから、投げ出そうと思わなかったし、演劇をもっと勉強して、それを職業にして一生やろうとしている。演劇のおかげで私の高校3年間はとても有意義なものになった。

「好きなことを職業に～」とは簡単に言えるが、いろいろな理由で実行できないことがあるだろう、実際私も親から、「大学はお金がすごくかかるから、そんなにすぐにOKは出せない。ちゃんとしたビジョンなりを提示して納得させてくれ」と言われて進路を考え直したりした。けれども自分でいろいろなことを考え直した結果、自分が一番のびのびと精一杯やって後悔なく輝けるのは演劇しかないと思い、その熱意を親にプレゼンした。その結果、受験を許してもらえて、何とか大学に通わせてもらえることになった。親を説得しようと動けるのも、親に説得する時に熱意が伝わるのも、「好きなこと」だと私は思う。

また、学力試験以外にも、面接や小論文、体験授業を受けてプレゼン等、受験の方法には色々ある。自分の熱意をアピールできる形式もあったりする。そういう形式であれば、少しでも好きな方が多く語れるから、好きであればあるほど有利になる。

最後に、きれい事で非現実的かもしれないが、人生は一回切りで寿命はとても短い。そんな短い寿命のなかでも、思った瞬間にものすごい勢いで動ける時間はもっとみじかい。もしかするとそんな短い寿命を全うできずおわってしまうかもしれない。だからこそ、進路を考える上で「好き」はとても大事だと思う。

「よく調べること、相談すること」

藍野大学 医療保健学部 作業療法学科

私は大学選びでよく調べるのが大切だと思います。はじめは京都の大学のオープンキャンパスに参加していましたが、今ひとつピンとこず、なりたい職業から大学を調べることにしました。私の将来なりたい仕事は作業療法士という仕事で、この仕事に就くには、作業療法学科のある大学か専門学校に行き、国家試験に合格しないとれないと知りました。そこで、作業療法学科があつて、家から毎日通える距離の大学のオープンキャンパスにはほとんど全て行きました、そこで感じたことは、同じ学部・学科でも雰囲気が全然違ったり、作業療法士の資格以外にも取れる資格がある大学があつたりと、大学によって全く違うということです。

受験するときにやっておいて良かったと思ったことは、部活と委員会を3年間続けたことと、時間をかけて調べたことです。志望理由書や面接で、自己アピールをしないといけなかったのですが、高校生活のことをそのまま言えたのが良かったです。また、いろいろな大学がある中で一つの学校に絞るのは難しかったです、時間をかけて調べたり、オープンキャンパスで色々なことを色々な人に聞くことで、少しずつ自分の行きたい学校を見つけることができました。

受験勉強でつまづいたことは、普段の勉強を疎かにしていたせいで、基本が全然できていなかったことです。過去問を解く前にすべきことが多すぎて、受験勉強が全く進みませんでした。受験勉強は早めに開始して、分からないことがあれば教えてもらったりしながら克服しておく必要があります。

アドバイスできることとしては、色々な人に相談することです。私は他の学部にも興味があつて迷っていましたが、色々な人に相談して意見をもらったことで、新たな選択肢を見つけ、進路を決定することができました。志望理由書を書き始めてから出願するまで、夏休みに毎日先生に見てもらい、アドバイスをもらうことを続けて合格することができました。

色々なことで悩んだり、分からないことがたくさん出てくると思いますが、一人で悩むのではなくて、先生や親や友達に相談することで、アドバイスをもらえたり、助けてもらったり、視野を広げてもらったりできます。そうすることで新しい選択肢が出てきたり、気持ちが楽になったりするので、相談することが大切だと思います。

「早くから受験勉強を始め、２年生で基礎固めを」

秋田大学 教育文化学部 理数教育コース

私は２年生の秋から受験勉強をはじめ、主に定期テストの勉強を中心にがんばりました。また、数学専攻の学部に入りたかったので、黄チャートの数学ⅠＡから復習し、３年生の夏休みには、１日に４５ページずつ進めて、数ⅠＡから数Ⅲまで３冊解きました。そのおかげで、数学の基礎が身につく、夏休み明けからは私立大学の過去問に手をつけることができました。公募制推薦で私立大学に合格してからは、本格的に共通テストの過去問を解きました。私は理科と地理が苦手だったので、放課後に学校で補習をしてもらったり過去問を解説してもらったりして対策しました。また、３年生になるまで古文単語を全く勉強していなかったため、古文が読めず大変でした。ぎりぎりまで古文単語は完璧に覚えられなかったです。古文単語は英単語に比べて量が少ないですが、共通テストや私立大学文系を受験する人は、２年生のうちから勉強しておくべきだと思います。

英語に関しては、文法や単語は１年生の時から定期テスト対策としてかなり勉強していたのですが、大学受験の英語は単語の意味が軽く分かるくらいでは対応できませんでした。３年生になると、数学などの勉強が重たくなるので、英語は２年生までに固めて、３年生では学校の授業をしっかりと聞いて頭に入れることが大切だと思います。共通テスト対策として効果的だった勉強法は、速読とスタディサプリ English です。共通テスト（リーディング）は長文しか出ないので、時間との勝負になります。文法が固まり、長文が読めるようになったら、声に出して早く意味を理解しながら読む練習をすると、読むスピードが変わってくると思います。リスニングは、３年生の冬休みにスタサプ English で共通テスト対策をしたことで、本番では今までで一番良い点を取れました。けれども、もっと早くから対策していれば、もっと高得点を狙える科目だったので、後悔しています。英語は文系でも理系でも必ず勉強しないといけないし、覚えることも多いから、コツコツ学習がいちばん身につく教科です。

また、私は YouTube やスタディサプリを活用して勉強しました。教育系 YouTuber の方は共通テスト対策などたくさんの動画を出されています。私はお風呂でよく見ていたのですが、気楽に勉強できて身につくので、かなり効果があったと思います。

早くから受験を意識して勉強し、２年生の間に基礎を固めることと、合格に必要な力をどうやってつけるのか対策を考え、実行していくことが大切だと思います。

「進路は自分次第」

池坊短期大学 環境文化学科 製菓クリエイトコース

私は後輩の皆さんに伝えたいことがたくさんあります。一つは、人生の先輩に頼ること。先生にたくさん相談し、たくさん説明会に参加してください。私はずっと専門学校に行こうと思っていましたが、部活の顧問の先生に短大を勧められて、大学もよいなと思うようになり、自分の好きなことを学べる大学を調べるうちに池坊短期大学と出会いました。面接も、担任の先生や塾の先生にアドバイスをたくさんもらいました。先生は怖いイメージがあるかもしれませんが、先生方はいざという時、生徒を応援してくれます。悩みや困ったことがある時は是非先生に相談してみましょう。

二つ目は、何事にも全力で学校生活を送ってください。私は勉強が苦手です。そして人前に立つことも苦手でした。ですが変わりたいと思って生徒会やボランティア部に入ったり、勉学に励んだりしました。三年間頑張った結果、私自身に自信ができました。その自信は面接にもつながり、合格することができました。やりたいことに全力で取り組むと、自信がつくことを学びました。大学受験が終わってからも、英語の勉強を自分で進めたりしています。

三つ目に、決して諦めないでください。私自身、3年間たくさん悩み苦しみました。後悔もしました。でもそれらを放置せず挑むことで、「私は3年間たくさん頑張ったんだ」と自分自身にちゃんとと言えるようになりました。私のように勉強が苦手、人前に立つのが苦手、自信がないという人も、つらい現実から目を背けないで、でも完璧も求めないで自分のペースで諦めずに進んでください。日頃の積み重ねが自分自身を強く成長させます。

ところで、私が専門学校ではなく短大に進学する理由を少し紹介します。専門学校に進むと、専門分野についてのみ学び、専門分野の職しかつけなくなります。短大に進学すると、専門分野の勉強プラス言語や社会など、2年間で様々なことを学び、専門分野以外の道への就職も可能です。やりたいことが一つに絞られている場合は専門学校がよいと思いますが、一つに絞りきれず迷う場合や、将来気持ちが変わるかもしれないという場合は短大をお勧めします。短大からは四年制大学への転入も可能ですし、夢が変わる可能性がある場合の対応もできます。私自身も専門分野だけでなく、英語と女性問題も学びたいと思っているので、短大に決めました。比較することが大切なので、興味のある大学のオープンキャンパスに是非参加してください。メモをたくさんとって、親や先生と相談して自分で決める、それが一番よいことだとおもいます。

最後になりますが、進路は自分次第です。頑張るか頑張らないかも自分次第だし、進路を決めるのも自分次第。でも、頑張れば頑張った分だけ自分に自信を持つことができます。ですから、3年間頑張ってください。

「あなたが頑張れば、何にでもなれます」

京都府立大学 文学部 欧米言語文化学科

親や先生の反対のなか朱雀高校への入学が決まったときは、自分の進路がどうなるか不安で仕方ありませんでした。けれども、三年間勉強と部活を一生懸命やってきて、朱雀に入ったことを後悔したことはほとんどありませんでした。色んな人に囲まれた環境でちょっと怖いなと感じる人がいたり、合わないなと感じる人もいたりしましたが、三年間自分のやりたいことを貫いた高校生活を送っていたと思います。

1,2 年のうちは部活に打ち込みながら個人的な表現活動もでき、勉強漬けになりすぎず楽しく過ごすことができました。進路を意識する時期になって先生と面談をしたときは、自分で無理だと思っていた目標を沢山の先生方に応援していただき、悩みの相談や補講の調整、小論文の練習等で本当に熱心にご支援いただいたのをよく覚えています。

勉強でも部活でも、高い目標に向かって頑張る生徒を応援してくれる学校だと感じています。朱雀に入学して、高い進路目標は持てないのではないかなと思う人もいるかもしれませんが、朱雀高校の先生方は、生徒の頑張りを無駄にしない最大限の努力をしてくださっています。あなたが頑張れば何にでもなれます。

「目の前にあることに精一杯取り組む」

佛教大学 文学部 英米学科

私はこの3年間で、進路決定のために何かに注力したといことはありません。勉強は好きでなかったのも、頑張ることはなかったし、部活も習い事もやっていなかったのも、「特にこれをごんばった」というものはありませんでした。それでも大学の推薦枠をもらえたのは、毎日学校に来て、毎回授業に参加して、先生の指示に従う、そういう小さなことの積み重ねの結果のようです。

先生方が「当たり前」だと認識しておられること、それこそ学校に来て、授業を受けて、提出物を出すといったことを着実にこなしていったから評価してもらえたのかもしれませんが。けれども、これはこれで面倒なのかもしれません。毎日時間通りに来るのがしんどいとか、先生の話が退屈で聞く気になれないとか、提出物が多くてやる気になれないとか、何かしらあるでしょう。そういう時は、まず意識だけでも変えていくのがよいのかもしれませんが。まずは意識して「早く学校に行こうとする」とか、「提出物に手を着けようとする」、「先生の話の聞こうとしてみる」等試してみてもいいと思います。結果なんて

後からついてくるだろうから、最初は意識だけでも変えてみましょう。もちろん夢や目標がある人はそれに向かって頑張ればいいけれど、高校生でしっかりとした目標がある人って多くはないだろうから、大多数の人は明確な夢や目標がないかもしれません。そういった人たちは、まずこういったことを少しでも意識して過ごせたら何か変わるのではないのでしょうか。まずは、目の前にあることに精一杯取り組む。そしてそれを着実に積み重ねる。自信も結果も目標も、こういうことの積み重ねで見えてきます。

皆さんの希望の進路が実現することを願っています。

「成功するために挑戦しろ」

京都橘大学 現代ビジネス学部

「あなたが本校を志望した理由は何ですか？」この質問の答えになる内容を考えなければならぬ人は、きっとその大学に特別行きたいわけではありません。家の事情などもあるかもしれませんが、朱雀高校の生徒の半分以上は、「なぜ〇〇大学に行くの？」と尋ねると、「とりあえず大学には行っときたいから」と言います。ただ、そういう人たちが、授業を目の前にしたときに、勉強に身が入らず、勉強をしていなかったことを、後悔している姿を私は間近で見してきました。

私はなぜ同じ高校で3年間学校生活を送っているのに進路に真剣に向き合える人と向き合えない人がいるのかという疑問を持ちました。そして、明らかな違いを見つけました。それは普段の学校生活や行事で様々なことに挑戦しているか、していないかです。進路に真剣に向き合えている人は、それまでの学校生活や行事に真剣に向き合えている人、つまり「挑戦」している人なのです。何かに真剣に向き合い、挑戦してきた人はそこで沢山の失敗をして、経験を積みます。成功を収めたことのある人は挑戦し、努力することで成功することができることを知っています。成功するってわかっているから、それに向き合う活力が生まれるのです。最初から失敗すると思っている人たちは、何かに向き合う活力がわからないことが普通の状態になってしまっているので進路に向けた勉強にも身が入りません。

ここまで、進路に向き合える人とそうでない人について話してきましたが、私が自分の経験をもとに皆さんに伝えたいことは、一つです。より良い進路を選択し、様々な所で成功をおさめ、より良い人生を送りたいのであれば学校生活や行事の中で沢山、挑戦してください。そうすれば必ずどこかで成功します。実際に山ほど挑戦し、進みたい進路に進んでいる、私が証拠です。

信頼できる先生と早く準備をする大切さ

立命館大学 産業社会学部 現代社会学科 メディア社会コース

私が大学入試を受けようと思い始めたのは3年になってからである。元々専門学校に行きたいと考えていたが、家族での話し合いと先生の勧めもあり、指定校推薦合格を目標とし、頑張ることにした。私自体が演劇部に所属しており、全国大会が8月に行われることもあり、指定校しか考えていなかった。だが、指定校は落ちてしまった。そこからがすごくたいへんであったのを覚えている。準備と調査をしていれば良かったのだが、自分の行きたいところのAO入試の出願まで1週間ほどしかなかった。まず願書などを書くのだが、私の行きたい学校はそれに加えて自己PRで1200字の小論文を書かなければならなかった。私は文章を書くことが苦手であったので、部活の顧問の先生に見てもらった。見てもらおうと小論文ではなく、作文になっていると言われた。そして色々とアドバイスをしてもらい、作文と小論文の違いを教えてもらった。先生も忙しいはずなのに、協力してくださったことも覚えている。一週間しかなかったので、夜更かしする日々も続いた。先生のお陰で受験することができた。受験も小論文試験で勉強するときも先生に教えてもらいました。勉強することは大変で、苦しさもあったけれど、先生の教えと、自分を信じ切ることで乗り切ることができました。私は時間がない中で、無理をする形で受かったような気がします。ですから皆さんは無理をしすぎないようにも、準備と下調べはきちんとやっておくべきであると思う。また途中で諦めずに自分を信じ切ることも必要であると思う。そして時間がない中で受かったのも先生や家族のお陰であると思う。しっかりと信頼できる先生を見つけ、頼るときは頼り、感謝も忘れてはいけない。そのためにもしっかりと3年間頑張り抜き、真面目に学校生活を送ることが大事である。

「日々の力の大切さ」

京都府立大学 生命環境学部 環境デザイン学科

私は高校の入学にあたり親と約束したことがあります。それは“周りに流されない”ということです。周りと同じことをしていたら受験の際、ほかの人よりも後ろからスタートすることになります。なので私は、提出物や定期テストなどで常に手を抜かず、成績を取ることを意識して高校生活を送ってきました。それでも時に周りが遊んでいるなかで一人勉強している自分を馬鹿馬鹿しく感じたこともありました。しかし、私は不器用な性格のため人より努力をしなければ授業にもついていけなくなってしまうのではないかと思います。

ていたので、何度も遊びの約束を断ったこともありました。そこまでする必要があるのかと思う人がいるかもしれません。たしかにただ高校生活を楽しく謳歌するだけならそこまでする必要はないのかもしれません。しかし大学への進学を少しでも考えているのなら、そこまでのことをしてもいいと思います。私はこの努力のおかげで学校からの推薦をもらうことができました。推薦は受験をするのにあたって有利となるものです。朱雀高校では、努力をしていれば推薦をもらえる確率は高いです。そのチャンスを自分から手放すのはもったいないことです。

しかし、受験したい大学からの推薦の募集がないことだってあります。それでも努力することに意味がないなんて思わないでください。普段から成績をとっていれば、進路を決めるとき大学の選択肢が増えます。それは自分の将来が広がり素晴らしいことです。

私は、受験を通して常日頃からの努力の大切さに気づきました。努力をすることは簡単ではありません。さらにすぐに結果として現れることもありません。私もそうでした。しかし、根気よくコツコツとがんばっているといつかは自分へプラスとなってかえってきます。この努力が合格に繋がったと思います。

「早い時期からの志望校決定がよかった」

京都府立医科大学 医学部 看護学科

私は入学当初から志望校を決め、常に意識して毎日の学校生活を過ごしていました。私は特別な勉強法を用いた訳ではありません。先生方が授業中などに教えてくださる勉強法を地道に実践してきました。分からない問題があれば、空き時間に先生をつかまえて教えてもらうようにしていました。最初の2年間は学校の授業を中心に、積極的に勉強しました。過去問題にも目を通しておきました。3年になってからは、本格的に受験に向けた勉強を始めました。まず、とにかく英単語を覚えるようにしました。英語、数学、古典などは毎日勉強しないと身につかない教科なので、根気よく続けるようにしました。小論文は夏休み明けから、毎日1つは書くようにしました。新聞にも目を通したり、時間があればスクラップするようにしました。

このような勉強法はあくまでも1つの例であり、他にもたくさんの方があると思います。是非皆さんの信頼できる人に相談してみてください。そのような人からのアドバイスの方が、とりわけ自分にとって受け入れやすいものだと思います。

皆さんが全員希望通りの進路に進まれることを願っていますが、必ずしもその為の努力が報われるとは限りません。しかし、報われようとするならば、努力するしかないということも事実であると私は思います。苦しい状況の中で、努力し続けることは辛いですが、

どうか辛抱強く、頑張ってください。

皆さんの高校生活が有意義なものになるように、1日1日を大切に過ごしてください。

「学校の授業がいちばん大切」

同志社女子大学 現代社会学部 社会システム学科

私は指定校推薦で合格しました。推薦なので年内に決まりますが、それまでが大変です。1, 2年の成績と欠課時数が関わってきます。なので3年だけ良い成績をとれば良いと思う考えはダメです。私はバトン部に入っていて、さらに習い事をしていたので大変でした。いちおう塾にも行っていました。けれど、一番大切なのは学校の授業です。出席はしているが寝ているや、友達と喋っていてノートやプリントを書かないなどは、出席していないのと同じです。テストでいい点を取っても、提出点、態度などが平常点として含まれるので、評価は下がる可能性があります。授業をちゃんと受けましょう！！

指定校推薦は校内選考で選ばれないと、推薦されません。また、指定校推薦ではほとんどの大学で、願書を出す際に志望理由を書きます。私は志望理由を書くのに一番時間がかかりました。5回以上は書き直しをしました。初めは文章量も少なく、まったく読めたものではありませんでした。先生の指導のおかげでなんとか、量も増え中身も充実しました。初めからよい作文を書ける人はいないと思いますが、作文が苦手な人でも先生のアドバイスを聞きながら自分が思ったことを書けば良い文になると思います。

最後に、年内に進路が決まったからといって、勉強せず遊びまくるのはやめてください。ほとんどの人がセンター試験や一般試験を受けて入学してきます。その人たちとは1, 2か月の勉強量が違うので学力の差はかなりあると思います。自分が進む大学の先生が書いた本や、これから学ぶことと関係する本などを読むのがおすすめです。

どの入試を受けるにしても、一番大切なのは、まじめに授業を受けることです！！

「試験に向けてこのように準備をしました」

びわこ成蹊スポーツ大学

僕はびわこ成蹊スポーツ大学をAO入試で合格しました。これからどうやって大学に合格したか話したいと思います。まず、部活を3年間しっかりすること。部活を3年間しているのとしていないのでは少しは違うと思います。でもただ3年間スポーツをやっ

ていたのではだめです。どうしたらもっとうまくなれるか、うまくなるにはどのような練習をしたらいいかを考えて練習してください。スポーツ大学やスポーツで大学に入ろうとしている人は絶対に聞かれる質問だと思います。練習中に先生に言われたこと、友達に言われたこと、自分の苦手なところ、自分の長所、短所、自分が大学に行ってなにがしたいか、大学ではどんなことができるか。今あげたことを全部考えられていた訳ではありません。でも受験に向けてがんばっていた時、もっとこのことを考えていたら楽だったんだろうな、と思いました。だから受験する人には、このことを考えながらがんばってほしいと思っています。

受験方法は小論文と面接とプレゼンテーションでした。それについて話したいと思います。まず大事なものは成績です。僕は塾に行っても成績を上げました。これでは成績が上がらないと思う人はとりあえずいっぱい勉強しないといけません。AO入試だからといって勉強しなくていい訳ではないのです。僕は小論文を塾の先生や学校の先生、友達といったたくさんの人に見てもらい、いろいろな意見を聞きました。恥ずかしがらずたくさんの人に見てもらい、意見をもらわないといい小論文は書けません。

次に面接とプレゼンテーションについて話したいと思います。面接とプレゼンテーションは分かっていると思いますが、かなり緊張するので練習量が必要です。僕はたくさん練習しましたが、すごく緊張しました。面接とプレゼンテーションの練習の時、進路部の先生全員を前に発表したことがあります。いろいろ言われましたが、とてもためになりました。たくさんの先生にお願いをして見てもらって、意見をもらうことをしてください。毎日進路部に行って見てもらう時間をたくさん作ってください。プレゼンテーションでは自分をアピールしないとイケないので、自分のことをしっかり考えて言葉にすることが大事です。僕はアンケートをとったり、グラフを作ったりして、でた課題を分かりやすく説明できました。準備はとても大事なものです。これから受験する人は大変ですが、一生懸命がんばってください。

「準備と反復練習が大事」

龍谷大学 短期大学部 社会福祉学科

私が進路のことを真剣に考え始めたのは三年生の部活を引退した6月頃からでした。それまでは部活に熱中してぼんやりとは考えたことがありましたが、具体的にはそのときは、決めてませんでした。ですが引退をきっかけに、危機感を覚えるようになり、真剣に考え始めました。気になる大学のオープンキャンパスに参加したり、先生方や両親、塾

の先生にも相談をして、そして私はこの大学を志望することにしました。その際、先生に志望する学部の指定校推薦があることを教えていただき、受験しました。

受験方法は、調査書と小論文、そして面接の3つでした。わたしは文章を書くことと、面接の両方が苦手でした。最初の頃はどれもボロボロで、自分が大丈夫なのか不安に感じる程でした。ですが練習を重ねていくごとに徐々に改善されていき、自分に自信が持てるようになりました。本番ではとても緊張しましたが、練習の成果がでて、慌てずに受験することができ、合格できました。受験の間根気強く練習につきあってくださった先生や応援してくれた家族や友達には感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

私が言っておきたいことは、早め早めのうちから進路についてどうしたいか明確にしておくことです。目標を立てておくと、自分の中でこれからの計画が立てやすくなりますし、勉強への意欲向上へと繋がるかもしれません。自分の中で納得のいく進路を見つけてその目標に向かって是非がんばってみてください。応援しています。

「挫折感からはじまった高校生活を充実したものに」

山口県立大学 看護栄養学部 看護学科

まずは、自分が今いる場所でやれることを、自分が今やれる全てでやって下さい。私は朱雀高校に来るつもりはありませんでした。中学校3年間のがんばりは何の意味もなかったのだろうか、と思いながら朱雀高校の門をくぐったのを覚えています。

1年生の時は、とにかく焦っていました。入学後すぐに塾を探し、周りに流されてはいけないんだと考えていました。1年生の時から少しずつでも英単語を覚えていけたのは受験の時に良かったと思います。学校で授業をうけ、部活をし、そして週2回塾へ行きました。

2年生になると、1年生の時のような焦りはなくなりました。きっと、そんなにがんばらなくても多少がんばっていればいいや、と思ってしまっていたんだと思います。2年生の時は勉強よりも部活が大変でした。先輩が引退なさって部長になったのですが、思うように活動できない日々が続きました。「あなたは甲子園（たとえです）に行きたいのかもしれないが、全ての部員が甲子園に行きたいわけじゃない。」と人にさとされたこともありました。それでも私は甲子園に行きたかった、と部活のあり方を受け入れられずにいました。やめたいと思いつつも最後まで部活をしながら塾へ通っていました。1、2年の時から何となく行きたい大学が決まっていたので、その大学のオープンキャンパスや公開講座に参加していました。

3年生になり、部活をやめました。その代わりに文化祭の準備が入ってきました。脚本係とキャストの一人をさせてもらったのですが、夏休みは夕飯か寝るかのどちらかの時間しか家にいられないような忙しさを経験しました。12月に第1志望だった大学の試験があつて、合格できなかったのですが、文化祭準備に参加したことを私は絶対に後悔していません。ただ、後悔していることは12月の試験の時、自分に自信が持てなかったことです。「自分は本当にやれることをちゃんとやったのかな」とか「自分なんか」という気持ちのまま受験しました。山口県立大学の試験の時になって、ようやくそのままの自分で大丈夫なんだと思えるようになり、落ち着いて受けることができました。受験というのは、普段見ないようにしている自分を見せつけられてしまう時期だと思います。部活で悩んだことも、文化祭で皆と泣いたことも、全て受験に役立ったと思っています。たとえ自分が今いる場所が望み通りの場所でなかったとしても、自分が今いる場所で今やれることを全てでやって下さい。それからそのままの自分で良いんだと思って下さい。応援してくれる人は絶対にいます。充実した高校生活を送れるよう祈っています。

「面接は自信をもって」

京都府警察官

私は面接のことについて話します。公務員試験に限らず、就職でも面接は一番だと思います。特に今回私が受けた京都府警察官は「人格」が重視されるので、一次試験の筆記試験や体力試験よりも最終試験の個人面接が一番大事だと思います。もちろん、一次試験の筆記試験や体力試験に受からないと個人面接してもらえないので初めも大切です。

筆記試験に合格すると集団面接があるのですが、京都府警の集団面接はとても変わっていて、そこでは志望動機や自己PRなどはいっさい聞かれません。答えのない質問をされます。答える内容よりも、そのときの態度を見られます。どんなことを聞かれても、だまったり下を向いたり、目を泳がせたり自信のない行動をしてはいけません。その答えがどれだけ間違っている、面接官に何を言われても、流されたり自信をなくしたりすることなく、堂々と自分の意見を貫き通す事が大事です。面接官は「答え」を聞くよりもそういった態度を見ているらしいです。

実際に私が集団面接で聞かれた質問は「動物園の飼育員だとしたら何の動物を飼育したいかと、その理由、家庭菜園をしたら何の育てたいかと、その理由」など予想も出来ない質問ばかりです。そして、いじわるな質問やいじわるな事を言われたりします。これは個人面接のときもそうでした。どんな事をいわれても、聞かれても、動揺したら負けです。

それと面接ではうそをついてはいけません。警察官はウソを見抜くプロなのですぐにはばれてしまいます。ちょっとでも怪しいと思うとつっこんで聞いてきます。個人面接が終わったあとはすごく手応えがありました。面接でうまくいったのは面接までに自己分析をしたり、友達や周りの人に自分がどんな人かをきいたりして自分をよく知る事が出来たからだと思います。

ぜったいに警察官になるという気持ちと面接官に自分を知って欲しいという気持ちを強くもつてのぞめば自然と声も大きくなって自分の言いたいことを言えました。私は実際に警察官の方たちに面接練習をしてもらったりしてたくさんアドバイスをもらいました。面接は数をこなして慣れることが大切だと思います。

「面接は練習の積み重ね」

NISSHA 株式会社

就職活動をするにあたって、私は面接に最も苦労しました。元々対面でのコミュニケーションが苦手で、すぐ緊張してしまう性格だったので、最初の頃の先生との練習の時は散々でした。胸がぎゅっと縮まって、声が震えて上手く喋れないのです。ようやく言葉を出せても、内容もまとまらない。その時、自分の練習不足を痛感しました。

やはり、面接で一番肝心なのは練習の積み重ねです。一朝一夕ではあの面接特有の空気や込み上げてくる緊張に慣れませんし、自分が言いたいことを覚えることも出来ません。何度も繰り返し練習して身体に染み込ませる必要があります。逆に言えば、場数を踏みさえすれば形になっていきますし、余裕を持って答えられるようになります。

ですが、ただ機械的に暗記してはいけません。そうすると質問の順番が変わっただけで答えられなくなったり、たった一文字を忘れて詰まってしまうたりします。文章ではなく言いたいポイント毎に記憶するなど臨機応変に対応できるようにしておきましょう。

面接において重要なのはこれだけではありません。面接に至るまでの過程、すなわち日々の生活をどう過ごしてきたかが必要となります。例えば敬語が挙げられます。日頃から敬語を使わないと思わぬところでボロが出ます。うっかりタメ口で話してしまった、なんて許されないのです。また、学校の勉強も疎かにしてはいけません。就職だから成績なんて留年しなければ大丈夫、と思っている人もいるかもしれませんが、就職でも一定の成績は必要です。なぜなら、企業の方は私達の成績を知っているからです。私自身、面接の時に成績関係の質問をされて驚きました。ですが、ここで良い成績を取っておけば、「この生徒は頑張ってきたんだな」と面接官に伝わります。言わずとも自分をアピールしてくれる、1つの武器になり得るのです。勉強をやらない手はないと思いませんか？

面接とは、履歴書だけでは分からない自身を一挙手一投足まで審査される場であると同時に、自分をプレゼンする今までの集大成が詰まった場所でもあります。だからこそ、これまでに積み重ねてきたものが大切なのです。それが分かってさえいれば、今から始めても何も遅いことはありません。これを読んでくださった皆さんも、来る本番に備えてこつこつと準備をしてみてください。きっと、将来の貴方の役に立ちます。

「継続は力なり」

コーナン商事株式会社

何も知らない状況から合格通知が来るまでの話をします。

最初は、進路希望を決める上で自分についてよく知ることです。自分に合った職業を知るための第一歩です。周りからの印象や自分を見つめて思ったこと等、自分を知りましょう。自分を知ることにより自分に合う職業を見つけやすくなると思います。

社会に出る前に、高校生活を過ごしていく中で大切なこともあります。例えば、コミュニケーション力を上げることや、当たり前のことを普段からできるようにすることです。他にもたくさんありますが、大きく言えばこの2つです。社会に出ると、たくさんの人と関わる必要があります。自分から積極的に話して、相手とのコミュニケーションをとりましょう。そして、遅刻や欠席、宿題の提出期限やルールをきちんと自己管理できるように高校生活の中で規則正しい生活を送りましょう。

希望進路を決める上で、よく考えましょう。自分の将来が決まる選択なので、焦らずゆっくり話し合いましょう。

希望先が決まったら、会社見学に行きます。進路指導の先生と一緒にいきますが、分からないことがあれば聞きましょう。あとは、メモ用紙を持って行き、大事なことはメモすると会社側の印象も変わると思います。会社の雰囲気や内装、何を目標としているか等メモをしておくと面接のときに参考になるのでいいでしょう。

志望先が決まれば、先生との面接練習があります。面接練習をしていく中で大切なことは、「イメージする」・「書く」・「声に出す」の3段階で進めるといいでしょう。まずは、面接で想定される質問に対し、自分が答える内容をイメージし、その内容をプリントなどに書いてみるといいです。文字にすることで内容が明確になり、アピールポイントを整理できるようになります。あとは、面接官の目線で、マナーや身だしなみ、話し方や、回答の内容が適しているか等の確認をするといいです。1人で練習するときは回りくどい表現になっていないかチェックをしましょう。

就職試験の対策をする上で、試験の内容を理解した上で、適切な対策をとりましょう。面接だけの試験もあれば、筆記試験がある会社もあります。筆記試験でも、書類審査と適性検査の2つがあります。私は適性検査の方でした。書類審査はいかに自分を上手くアピールできるかがポイントなので、企業や自分自身のことをよく理解しておきましょう。

適性検査は、能力適性検査で得点を取るので問題（過去問）を繰り返し解きましょう。出題される問題の難易度は高くないので、パターンを覚えたり、限られた時間で速く正確に解く練習をしたりするといいです。

そして、無事に審査が通れば結果が学校に届きます。これらの過程は大まかな話なので少し困惑するかもしれませんが、少しでも役に立てたらと思います。

自分の進路は、あなた自身が決めます。将来に関わることなので、今この時間を大切にしながら過ごしてください。「継続は力なり」です。諦めずにたくさんの壁を乗り越えてください。応援しています。頑張ってください。

「自分らしく」

昭和ニット株式会社

私は最初、就職活動が嫌でした。それは元々自分が考えていた進路とは違っていただけです。親と進路の話をした時にはっきり「働いてもらわないと困る。」と言い切られてしまい、泣く泣く就職アッセンブリーを受けることになりました。働くといっても、アルバイトとは全く違いますし、正社員になって仕事に就くということがこの時の私には想像が付きませんでした。アッセンブリーでまず「働くということ」がどういうことなのか、

「なぜ働くのか」ということを問われました。普通はお金を稼ぐためだということが最初に浮かぶと思いますが、アッセンブリーではそれだけではなく、「働くことの楽しさ」や「やりがい」といったものも仕事をする上で大切だと教わりました。この言葉を聞いた時に、私は働くことへの不安が少し薄れた気がしました。

アッセンブリーでは就職活動のマナーやお礼状の書き方、企業見学など勉強すべき内容が充実しており、先生方も熱心に私たち生徒の話を聞いて下さいました。私も不器用なりに大切なことはメモを取り、自分に向いている企業がどういった所なのかを探しました。応募する企業が決まり、採用選考試験に向けての面接練習もしました。私はこの面接が本当に苦手で、何度も企業先に伝えたい自分の思いを文章におこしました。それでもなかなか言葉にすることができずに落ち込んでしまったこともありました。そんな時でも先生方は励まして下さり、細かくアドバイスをして下さいました。その結果、試験当日に少しトラブルもありましたが、なんとか第一希望の企業先から内定をいただきました。当日の面接の記憶はもう今では曖昧ですが、前日まで本番に備えていた努力が実ったのかなと思います。

ます。これから私と同じように就職活動をする人たちはまず働くということに対して前向きなイメージを持って、面倒だと思うことでもしっかり前向きに取り組んで良い結果に繋げていってほしいと思います。

「就職活動の大変さ」

エムケイ株式会社

私は就職活動を本格的にするまではほとんどの人が一社で内定が決まるものと思っていました。なぜかというと去年の人たちがほとんど一社で決まっていた、決まっていなかったのは数人ということを知りながら聞いていたからです。

しかし実際、私は三社目でやっと内定が決まりました。内定が決まるまでには何回も履歴書を書いたり、放課後面接練習を何度もしたり会社のパンフレットを読んだりなどして正直私が思っていた以上に大変で面倒だということもあったり、就職活動そのものをやめようかと考えたこともありました。でも先生達がアッセンブリーだけではなくて、昼休みには履歴書のチェック、放課後には面接練習に付き添ってくれたり他にも会社に連絡してくれたり私以上に大変で面倒なことをしてくれていました。なので、早く期待に応えたいと思うようになりました。

しかし、それは簡単なことではなく、今までと同じようにしていてもまた同じ結果になるだけです。採用選考試験では面接だけではなくて、筆記試験がある場合もあります。なので、就職希望だからといって勉強をおろそかにせず、ある程度はやっておいた方が絶対良いです。なぜかというと、私が今回の採用試験の筆記試験で苦戦したからです。また日々の言葉遣いも気をつけておかないと、面接でいつも話している言葉がつつい出てしまいそうになるからです。面接で緊張していると、特にいつもの言葉が出そうになったり、敬語の話し方がわからなくなったりするものです。

なので、これから就職しようと思っている人は、これから先生にも何回も言われると思うけど、日々の言葉遣いに十分気をつけてほしいと思います。また勉強も最低でも基本常識的なことは分かっておいた方が筆記試験がある採用選考試験でも焦らずに済むので、普段からこのことを心がけてほしいと思います。

「就職は悩むことから始まる」

株式会社 志津屋

私は、「ここで働きたい!」と思う職場を見つけるまで、たくさんの時間をかけて悩みました。最初は自分がどんな仕事に向いているか、どんな職業に就きたいか、はっきり決まっていませんでした。そこで2年生の3月に行われた企業説明会に行って、様々な企業のお話を聞きました。その中で興味のある企業を見つけ、実際に企業が経営しているお店に足を運んでみました。そうすることで、店内の雰囲気やどんな商品を取り扱っているか、お客様への対応など、直に感じることができました。その後、数多くある求人票の中から3社まで会社見学したい所を選びます。それまでは、私が行きたいと思っていた会社は、1社しかありませんでした。先生と相談して何社か会社を薦めてもらったり、求人票から興味を持った会社のホームページを見て、他の会社と比較し、たくさん悩んで見学する会社を決めました。実際に見学させてもらうと、最初に行きたいと思っていた会社は、社内の雰囲気や仕事内容が自分には向いていないと感じました。そして、何気なく興味をもっていた会社へ見学に行ったときに、会社のパンフレットや説明を見聞きし、社内を見学させていただくと、ここなら自分も安心して働いていけそう、ここで働きたいという意欲が沸いてきました。そして、絶対にこの会社で働くと思うことで内定をいただくことができました。

会社を決めるにあたって、たくさんたくさん悩んで考えて苦しんで決めてほしいのです。もしかすると、その会社には5年、10年、30年、もっと先まで働くことになるかもしれません。ですから早めに行動し、焦らずにじっくり求人票を読んで、少しでも気になった会社について調べてみてください。きっと、働きたい会社が見つかるはずです。